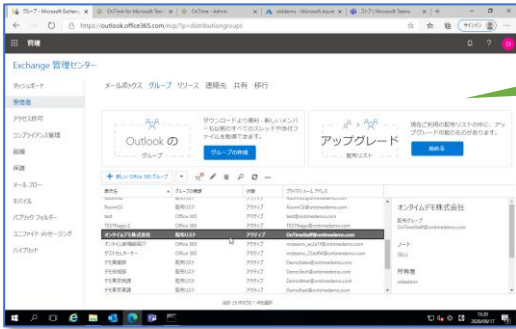


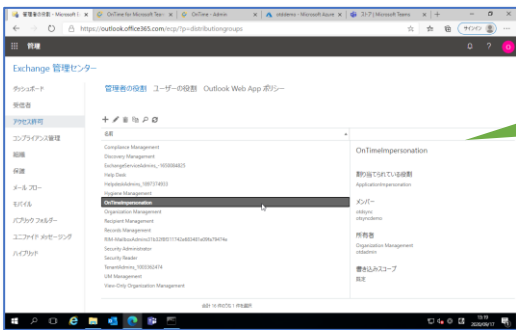
①OnTimeやSQLのインストールプログラムをダウンロード
→Windows管理者 約15分

SQL ExpressのサイレントインストーラーやOnTime用TomcatのインストーラーはOnTimeサイトからダウンロードできます。



②OnTimeに同期する配布リストの作成
→Exchange管理者 約10分

同期対象のユーザー、会議室、備品をそれぞれ配布リストとして準備します。既存のグループを入れ子にしても大丈夫です。LDAP検索による設定もあります。



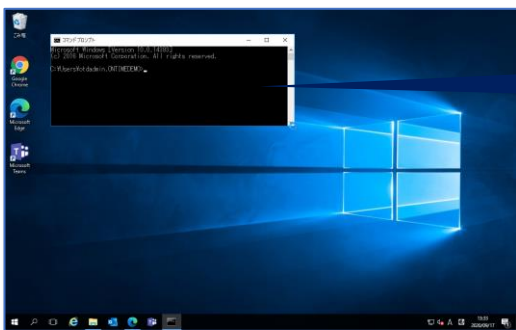
③1つの同期用アカウントに ApplicationImpersonation役割を付与
→Exchange管理者 約5分

このアカウントを利用して全てのMailboxの情報をやりとりします。Exchange Online KIOSK以上のライセンスが必要です。



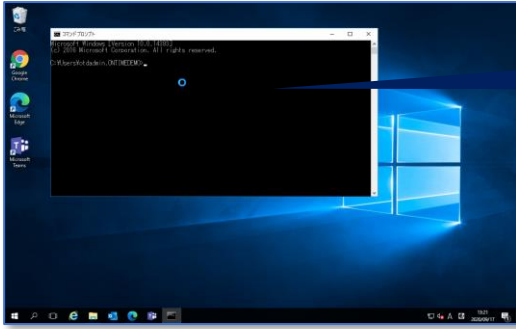
④OnTime用にWindows Serverの準備
→サーバー管理者 約60分

OnTimeサーバー用に1台準備します。ここにSQL ServerとTomcatをインストールします。スペックやSQLのエディションはユーザー数や予定作成数で変化します。



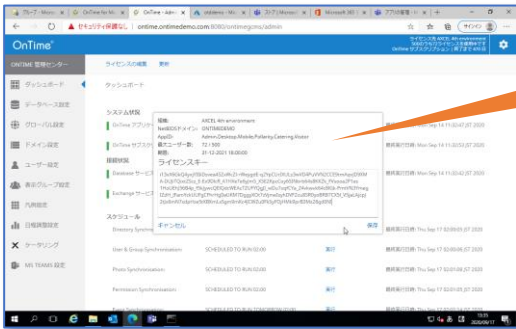
⑤OnTime用SQL Serverのインストール
→Windows管理者 約15分

ダウンロードしたSQLパッケージを展開してサイレントインストーラーを実行します。インストール先などは変更できます。



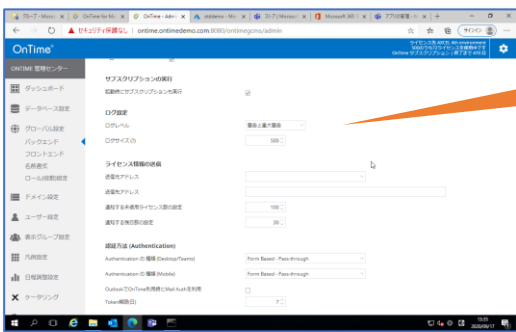
⑥OnTime用にTomcatのインストール
→サーバー管理者 約3分

TomcatとOnTimeのjarファイルをインストールします。



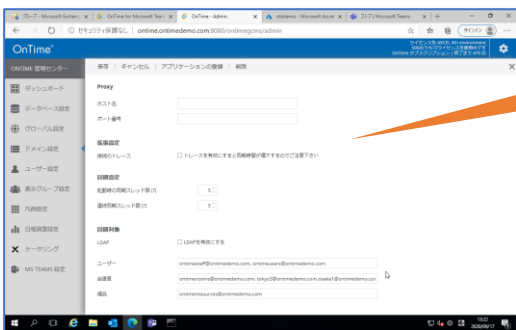
⑦OnTime管理センターでキー登録
→OnTime管理者 約1分

取得したアクティベーションキーを導入してアプリを有効化します。OnTime Shopサイトから試用版キーを入手するか、製品版キーを購入してください。



⑧グローバル設定の各項目を設定
→OnTime管理者 約3分

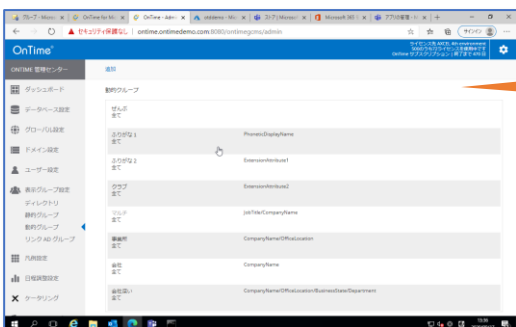
まずはOnTimeクライアントを利用するための最低限の設定を行います。認証方法や同期設定、Token期限などでとりあえず十分です。



⑨ドメイン設定の各項目を登録
→OnTime管理者 約5分

②③のExchange管理センターで準備した接続するテナント（ドメイン）情報を登録します。設定が完了したらダッシュボードから初回同期（Sync）を実行します。

ここ迄の設定で OnTime クライアントは使い始められます



⑩（その他の項目を追加で設定）
→OnTime管理者 約10～30分

⑨迄の設定でOnTimeクライアントは利用出来るので次のステップに進めます。後ほど表示グループや凡例など設定してください。

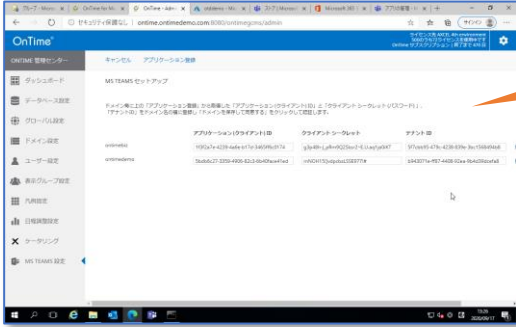
Azure Portal



⑪ Azure Portalでアプリの登録
→ AzureADグローバル管理者 約10分

OnTime for TeamsはAzureとGraph APIを利用した接続を行うため、Azure Portalでアプリ登録を行います。⑫で使用する3つのIDも発行します。

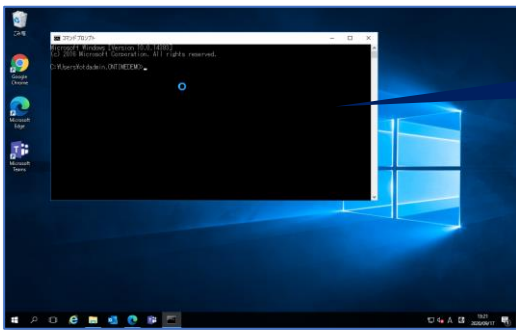
OnTime 管理C



⑫ AzureADで取得した3つのIDを登録
→ OnTime管理者 約3分

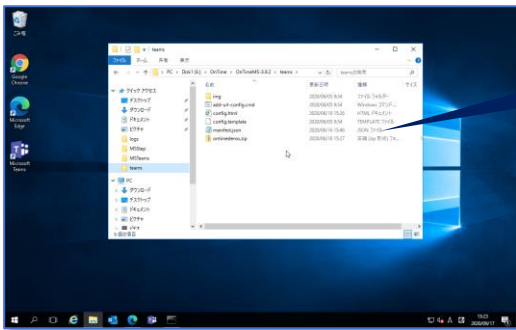
⑪のAzure Portalで生成した3つのIDを登録し、そのまま承諾処理を実行します。これにてTeams会議の開催は予定作成画面から可能になります。

OnTimeサーバー用 Windows Server



⑬ OnTime側にTeams連携用設定を実施
→ Windows管理者 約2分

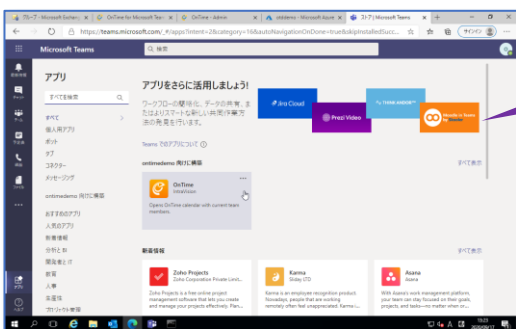
OnTimeサーバー側にTeams連携用ファイル(cmdファイル)を実行して設定します。



⑭ Teamsアプリ登録用zipの作成
→ Windows管理者 約2分

アイコン画像とマニフェストファイルからTeamsアプリ登録用zipファイルを準備します。

Microsoft Teams



⑮ OnTimeアプリzipをアップロード
→ Teams管理者 約2分

Teamsのアプリメニューから⑭で作成したzipを登録します。完了すると各チーム所有者がチャンネルタブに自由に登録出来ます。